

平成23年1月24日、総務厚生常任委員会は医師確保の方策を考える上で、研修医に人気のある浜田医療センターと、地域医療の研修を受け入れている弥栄診療所を視察しました。

## 浜田医療センターおよび弥栄診療所

浜田医療センターは浜田圏域の中核病院であり、県西部唯一の救命救急センターとして地域の診療所や開業医と連携し住民の健康管理を行っています。最新の医療機器を導入し、高度医療を行い、研修医の受け入れを積極的にすすめることで、医師体制の充実を図っており、年々研修希望者は増加しています。

また、浜田市国保診療所連合体を組織し、大麻診療所、弥栄診療所、波佐診療所、あさひ診療所の4診療所に5名の医師を配置しています。この5名の医師が定期的に他の診療所で診療を行うことで、それぞれの専門分野を活かした医療を行うことができ、より密度の濃いサービスを可能にしています。

**問** 医師に地域で長く働いてもらうために、私たちに出来ることは何か。この診療所で仕事をしようと思った時、家族の理解はすぐに得られたか、モチベーションを高めるために何をしているか。弥栄診療所所長 阿部顕治先生に伺いました。

**答** 8回やめて帰ろうと思い、9回思いとどまった。私はこの診療所には何度か訪れたことがあったので、来て欲しいと誘われたとき抵抗はなかったが、妻は悩んだようだ。地域の方となじめるか、子供の教育は大丈夫か、不安に思っていたようだ。地域の皆さんとのつながりが私をここに居させている。モチベーションを高めるために研修している。

若い医師は特に自分の医療技術が時代遅れになっていないか、いつも不安を持っている。私はリハビリの必要性を感じ、研修をしたいと当時の村長にお願いした。村長は県立中央病院から医師の派遣を受け、2週間の研修に出してくれた。このことには非常に感謝している。



弥栄村は定住先進地で若者住宅や子育て支援に力を入れてきました。このことが医師を確保する上で力になったと考えられます。支えあいの心を持った住みよい地域、安心できる住環境や教育環境など、定住対策と医師確保はまったく別ものではないことに気づきました。

医師やその家族を特別扱いするのではなく、町民のひとりとして、よき隣人として支えあうことこそ定着につながると感じた研修でした。

浜田医療センター



海士町が取組んでいる隠岐島前高校の魅力づくりプロジェクトと産業創出について学び、飯南町の行政に反映させる目的で、平成23年2月28日・3月1日の両日隠岐郡海士町を視察した。

## 隠岐島前高校の魅力づくりプロジェクト

入学者数が定員を下回っている中で、魅力づくり事業により島外から生徒数が増加しつつある。

### 魅力づくり構想

#### ○寮の活用

海士町では寮の運営を県から委託され、この寮を使って多様な交流の機会の提供、海外や都市との交流や留学生の受け入れを行うなど有効活用している。飯南高校も寮を使ったアイデアを示す必要性を感じた。

#### ○公営塾「隠岐国学習センター」

塾と高校との連携がいかに出来ているかが重要で、学習指導は1ターンで定住している若者が積極的に携わり、実績を上げている。

#### ○「高校の存続は島の存続に直結する」

このことは本町にも言えることで、飯南高校の存続は本町の存続に直結していると改めて感じた。単に高校の問題としてではなく、本町のまちづくり政策の中で課題としてすすめることが重要だ。

### 定住・産業振興

地産地商課長から説明を受けたが、最初の言葉に海士町のすべてが現れていると感じた。それは「生き残るための攻めの戦略・一点突破型産業振興策」だ。

「攻め」は地域資源を活かし、島に産業をつくり、人(雇用の場)を増やし、外貨を獲得し、島を活性化することであり、成長を島の外に求めることだ。そのことが地産地商課の「商」に象徴されている。

他に定住と観光開発を担う「交流促進課」、新たな産業創出を目指す「産業創出課」が設置され、この3課を、町の表玄関であり、情報発信基地やアンテナショップでもある港のターミナルに置き、現場重視を徹底している。

「ヒントは現場にある。現場でしか知ることの出来ないものを見落とすな。役場の中では発想は生まれにくい」。事務所は年中無休であることに海士町のすべてが現れていると感じた。

情報発信は広告宣伝費の掛かることをせず、都内の居酒屋、オイスターバーなど取引先にディスプレイを17台設置して海士町の映像を休み無く流して行われている。課長から「飯南町の情報も流すことが可能なので検討しては」と提案があり、早速本町の職員が海士町の担当者と協議に入った。

産業振興策を進めた結果、雇用創出効果は138人(1Uターン)となり、平成16年から21年までの6カ年で1ターンがさらに1ターンを呼び156世帯257人、Uターンも157人となり人口構成が変化し20代30代が大きく伸びている。

1ターンのための特別な支援は無いが、自分が活躍する「場」を求めている若者と、「やる気」と「スキル」のある若者を求めている島が融合して、新しい力に発展している。彼らは島の宝探しをして島のために役立ちたい、起業したいという志しを持った若者が多く、そしてこれを受け入れる土壌が海士町にある。

「わか者」・「ばか者」・「よそ者」が島起こしの原動力だ。異質なものを取り入れ、多様性を持つことで変化し成長する。島が生きていくには「わか者」や「よそ者」の力が欠かせない。「よそ者」を受け入れる土壌・環境の違いを強く感じた。

海士町の玄関口菱浦港

